専大スポーツ

No.272

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からログイン）でご確認ください
専大スポーツweb（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

女子団体で準優勝

バドミントン・全日本学生選手権

落合が3位

女子シングルス

井上ベスト8入り

全日本学生バドミントン選手権が10月3日から9日まで、石川県の金沢市総合体育館ほかで行われ、女子団体で準優勝を果たした。

団体戦で出場した落合智世（経済3・鈴峯女子高）、井上春奈（商3・埼玉栄高）、田村千秋（文2・昭和学園高）らが主にシングルスで健闘。準々決勝までを3―0のストレートで勝ち進み、準決勝の法大戦も3―1で勝利した。決勝の日本大戦では井上が先勝したが力及ばず1―3で敗れた。

また、個人戦では女子シングルスで落合が3位に入賞、井上がベスト8入りと活躍した。

落合は「今大会はチームが良くまとまっていた。優勝を目指していたので悔しいです。決勝戦はあと一歩という内容の試合がいくつもあったので、次の大会では優勝したい」と雪辱を誓い、「個人的には、相手から学ぶべきところがあったので、これからその部分を磨いていきたい」と振り返った。（庄司　亮介・文2）

▲　健闘し、３位となった落合

女子 杉本・堀部組が３位

卓球・全日本学生選手権

全日本学生卓球選手権が、10月9日から12日まで東京武道館で行われた。女子ダブルスで杉本枝穂（文4・青森山田高）・堀部紗代（文4・土佐女子高）組が3位となった。

しかし、杉本は昨年優勝した女子シングルスでは5位。同じく王者として臨んだ男子ダブルスの徳増信弥（経済3・杜若高）・森田翔樹（商3・青森山田高）組も5位と残念な結果に終わった。

杉本・堀部組は準決勝、2セットを連取し先に王手を掛けたところからの逆転負け。順調に勝ち進んでいった徳増・森田組も準々決勝で同じ展開で敗れ、なんとも悔しさの残る大会となった。試合後、決勝進出を逃したことについて杉本、堀部は声をそろえ「悔しい」と語ったが、プレーに関しては「コンビネーション面など、調子は良かった。最後まであきらめないことを意識して戦った」と振り返った。

この結果、杉本がシングルスのみで行われる11月28、29日の全日本学生選抜選手権の出場権を獲得。外国人留学生枠の高瑜瑶（商2・秀光中等教育学校）とともに、同大会に挑む。（馬場　雄也・ネット情報2＝写真も）

▲　女子ダブルス３位に食い込んだ杉本（右）・堀部ペア

男子 徳増・森田組は5位

杉本、高が「選抜」出場へ

団体は5位

レスリング・全日本大学グレコ選手権

大谷が55kg級で準優勝

中谷96kg級、平川120kg級３位

全日本大学レスリンググレコローマン選手権が10月23、24の両日、東京の駒沢体育館で行われ、55kg級で大谷康太（文3・向上高）が準優勝を果たした。

順調に勝ち進んだ大谷は準決勝で山梨学院大・梶に2―1で勝利。「以前負けた相手だったのでリベンジすることができて良かった」と話した。また、0―2で敗れた決勝戦を振り返り、「次の大会に向けて一からやり直します」と語った。

また、96kg級の中谷月明（文3・添上高）、120kg級の平川臣一（商3・三井高）が3位と健闘。84kg級で矢野将章（経済4・広陵高）が7位、60kg級で神山秀人（経営3・広陵高）が8位。大学対抗得点で団体5位となった。（大津　智世・経営1）

▲　表彰状を手にする左から平川、大谷、中谷（撮影・庄司）

ゴルフ・信夫杯〈日本大学対抗戦〉

女子3位　男子5位

最優秀選手に小川陽子

団体の大学日本一を決める信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦・同女子対抗戦が10月30、31の両日、千葉カントリークラブ・梅郷コースで開催された。専大は女子が3位、男子が5位に入賞。女子対抗戦では、2日間を144ストロークで回った小川陽子（経済2・香川西高）が最優秀選手に輝いた。

小川真実女子主将（文4・堀越高）は「チームワークも良く、全員が力を合わせてプレーできた。大学最後の大会で一番良い結果を残すことができ、本当にうれしい」と振り返った。

男子を代表して宮里政志（文3・鹿島学園高）は「難易度の高いコースで、どのくらい粘れるかがカギだったが、これが実力だと思う。東北福祉大、日大の2強に食らいつけるよう、個々が多くの経験を積み、来年につなげたい」と語った。

▲　２日間をパープレーで回り健闘した小川（陽）

朝日杯争奪日本学生選手権・女子

小川（陽）4位タイ

10月28、29の両日、同クラブで行われた個人の朝日杯争奪日本学生選手権には男女計7選手が出場。女子の部で小川陽子が2日間トータル149で4位タイとなった。

小川は初日、前後半ともに37でラウンドし、2位タイと優勝を狙える位置に付けた。2日目も前半はパッティングがさえ、34をマーク。後半、スコアを崩したものの、「初日が良かったので、2日目も攻めのゴルフを心がけた。パットが良く決まり、4位にとどまることができて、良かった」と話した。

文科大臣杯争奪全日本大学・高校対抗戦

男子・宮里が初優勝

文部科学大臣杯争奪全日本大学・高校対抗戦が10月12、13の両日、栃木県のロイヤルカントリークラブで行われた。専大からは男女合わせて4人が出場、男子の部で宮里が初優勝を遂げた。

今大会から高校生との対抗戦形式となり、男子は大学・高校から各40人が出場。宮里は「前半の難しいコースでボギーを打たないように意識した」と、前半は我慢のゴルフ。後半は「練習ラウンドの時、相性の良いコースだと思った」と、バーディーを狙う強気の姿勢で攻め、初日68（37、31）、2日目70（37、33）のトータル138で2位に3打差をつけた。

また、女子の部では木村麻希（経済3・明徳義塾高）、小川陽子がともに9位タイとなった。（佐山　竜太・経済2＝写真も）

▲　２位に３打差をつけ優勝の宮里

陸上競技・箱根駅伝予選会を突破

5年連続65回目出場決める

五ヶ谷が個人3位の好記録

第85回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会が10月18日、東京の国営昭和記念公園で行われ、専大は10時間19分25秒の8位で5年連続65回目の本大会出場を決めた。

10月にしては暑すぎる天候の中、それぞれの思いを胸に20キロ先のゴールを目指した。レースは留学生が不出場だったこともあり、単独で飛び出す選手がなく、けん制し合う展開。今年1月の本大会エントリーメンバー10人が出場した専大は、エース・五ヶ谷宏司（経営3・専大松戸高）が1時間0分11秒の個人3位でゴールし、予選突破に大きく貢献した。「先頭集団に入り、いけるところまでいこうと考えていた。思った以上に良い走りができた」と振り返った。

加藤覚監督は「8位という結果に満足していないが選手たちは良くやってくれた。五ヶ谷は100点満点の走り。来年はここ（予選会）に来ることがないよう、シード権を必ず取りたい」と本大会への意気込みを語った。シード権奪回に向けて動き出した。（久田　照喬・商2）

※予選会は各校12人の出場選手のうち上位10人の合計タイムで競われ、今回は第85回記念大会のため、上位13校が出場権を得た。（11位以下は関東学生選手権の結果によるアドバンテージタイムを加味）

※応援ポイントは次号で

▲　予選突破に貢献した五ヶ谷（撮影・佐山）

「箱根駅伝」応援グッズを配布！

▲　応援用の小旗

▽期間＝12月1日（月）～22日（月）

▽配布場所＝【生田】体育事務課、正門、9号館インフォメーション【神田】1号館B1インフォメーション、6号館入学センターインフォメーション